



2013 ～ 2014 年度
R I テーマ

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

国際ロータリー会長

ロン D・バートン (国籍・アメリカ)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ ホテルニューツルタ 〒874-0820 別府市北浜1-14-15
TEL (0977) 22-1110 FAX 21-1019
事務所 別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事 森園 伸也
〃 前田 哲矢
〃 後藤 隆
〃 近藤 賢司

理事 森 宗明
〃 村津 忠久
〃 佐々木久宜

役員 会長 森園 伸也
副会長 前田 哲矢
幹事 平野 教康
会計 木村 きぬる

S A A 高宮 勝美
直前会長 高宮 勝美

VOL. 26 -29
2014 年 2 月 18 日

第 1177 回 例 会

会報委員長 大島由美子

◆点 鐘 12 : 30
◆R S それでこそロータリー
◆唱 歌 春が来た

会長の時間

会長 森園 伸也

日曜日に行われた I M に出席いただきました皆さん、本当にお疲れ様でした。また、私の段取り不足でご迷惑をお掛け致しました方には誠に申し訳ございませんでした。まだまだ勉強不足の為、連絡等が行き届きませんでしたことをあらためてお詫び申し上げます。これで I M も無事に終わり、残すは地区大会となってきましたのでだんだんと肩の荷が軽くなってきました。残りの 4 ヶ月もこれまでと同様に皆様のご協力を頂いて、スムーズは運営をさせて頂き、次年度の前田さんへバトンタッチしたいと思います。

さて、もう 1 つ杵築 R C よりお願いが来ております。杵築 R C さんから皆様の会社の社是、社訓等を教えて欲しいとのことです。お手元に配られた用紙にご記入いただき提出頂きますようお願いいたします。期限は次週の例会までとなっておりますので、会社に戻られて記入いただいても構いませんので、ご協力をお願い致します。

以上で会長の時間を終わります。

幹事報告

平野 教康

—世界理解月間—

1. 本日の内容

「別府に生まれ 別府に生きる」
鳴海淳郎会員

◆出席報告

委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	29 名
	出 席 者	15 名
	事前メイクアップ	4 名
	理 事 会 承 認	3 名
	出 席 免 除	1 名
	欠 席 数	6 名
	出 席 率	60 %
前々 回 の 訂 正	出 席 率	88 %
	事後メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	3 名
	出 席 免 除	1 名
	修 正 出 席 率	88 %
1/28	連 続 通 算	— 回 745 回
		100 %

・メイクアップ

事前 藤原 (別府東)

木村、前田、高宮 (大分第 3 グループ I M)

事後

欠席 島田、堀、大島、河村、中尾、大江

理事会承認 桃田、岐部、森

出席免除 溝部

2. 2014-2015 年度 RI 第 2720 地区 会長エレクト研
修セミナー (PETS) 開催のご案内

日 時 平成 26 年 3 月 21 日 (祝・金) 1 日目

PETS : 13 : 00 ~ 17 : 00

親睦交流会 : 18 : 00 ~ 20 : 00



3月22日（土）2日目

9：00～11：30

場 所 PETS：

大分県労働福祉会館（全労済ソレイユ）

大分市中央町4-2-5 TEL097-533-1121

親睦交流会：

大分オアシスタワーホテル

大分市高砂町2-48 TEL097-533-4411

出席者 前田哲矢副会長

3. 第8回定例理事・役員会報告

（平成26年2月4日（火）13：40～

於：ホテルニューツルタ例会場 9名）

審議事項

1) 「第3回クラブ協議会」開催の件。

日 時 平成26年3月4日（火）12：30～

場 所 ホテルニューツルタ

2) 「創立25周年記念例会」開催の件。

日 時 平成25年3月25日（火）18：30～

場 所 ホテル山水館

会 費 未 定

3) 2014-2015年度地区補助金申請の件。※見送り

4) 2月・3月例会予定の確認

2月4日 「月と暦」近藤賢司会員

11日 「法定休日の為 休会」

18日 「別府に生まれ別府に生きる」

鳴海淳郎会員

25日 「我が社の経営課題」佐藤総一氏
（協栄工業㈱代表取締役／大分臨海RC会員）

3月4日 「第3回クラブ協議会」

11日 「会員卓話」前田哲矢会員

18日 「会員卓話」梶田健治会員

25日 「創立25周年記念例会」

（創立日3月28日）

4. 2月10日（月）8：15～鶴見台中学校新旧役員引継ぎ式に於いて、又、8：30～境川小学校全校集会に於いて「第2回別府中央RC子どもの善行表彰」の表彰式を行いました。

出席者：鶴見台中学校…森園伸也会長、
近藤賢司、平野教康
各会員

境川小学校 …河村貴雄、高宮勝美、
亀井 孝 各会員

5. 2月13日（木）12：30～別府市内4RC合同事務局において「大分第3グループIM最終打ち合わせ」が開催され、平野英壽ガバナー補佐と、平野教康幹事が出席されました。

6. 2月16日（日）14：00～別府湾ロイヤルホテルに於いて「RI第2720地区2012-2014年度大分第3グループIM」が開催されました。

出席者：平野英壽ガバナー補佐、森園伸也会長、鳴海淳郎、後藤 隆、木村きぬゑ、近藤賢司、津末美代子、高宮勝美、亀井 孝、前田哲矢、梶原和朗、平野教康各会員

7. お祝い

会員誕生日

津末美代子会員

（2月22日）

※記念品をお渡しいたします



8. 次週例会の予定

「我が社の経営課題」佐藤 総一 氏

（協栄工業㈱代表取締役／大分臨海RC会員）

9. 本日の回覧

①宇佐・くにさきRC 週報

②「2014-2015年度版 ロータリー手帳」希望購入

③「第3回クラブ協議会」出・欠席

10. 本日の配布

①週報No.1176

スマイルボックス 副委員長 近藤 賢司

○森園会長

IMも無事に済みホッとしています。あとは地区大会！！年度も残り少なくなってきましたが、皆様のご協力お願いします。

○前田会員

鳴海先生の卓話、楽しみにしていましたが、出張のため聞くことが出来ず、申し訳ありません。

○鳴海会員

今日の卓話を記念してスマイル。

○村津会員

一昨日のIM欠席をお詫びして、1つスマイル致します。

先月21日に大きな手術をされた森会員は、その後、手術の経過が良く、先週水曜日に、リハビリをされる病院に転院されました。

1日も早い全快を祈念してスマイル。

○津末会員

誕生日のお祝い有難うございます。

毎年歳を取りませんので宜しくお願いします。

○平野(英)会員

皆さん、IM無事終わる事が出来ました。全員登録していただき、又、当日出席していただいた会員の方々大変お世話になりました。

又、今日森会員のお見舞いに行って来ました。「みなさんによろしく」とのことでした。



○後藤会員

今年度の善行表彰が皆様のご協力が無事終了しました。ご出席の皆様へ感謝してスマイル。

○衛藤会員

春は名のみで毎日寒い日が続いていますね。今日は鳴海先生の卓話楽しみにしています。

○西馬会員

寒い日が続きますが、ソチオリンピックでの日本人選手の活躍に勇気をもらっています。今から女子フィギュアがとても楽しみです。金メダルが取れる様にささやかながら応援のスマイルを致します。頑張れニッポン！！

○近藤会員

今年の雪はすごい降り方で、我が家の庭もどっかり積もり、久し振りに雪だるまを作りました。さすがに今日の雨でつぶれてしまいましたが、少し心が子供にかえったことにスマイル。

卓 話

鳴海 淳郎

別府に生まれ 別府に生きる

わたしの家は1803年以来回船問屋（屋号・菓子安、代々・菓子屋安兵衛を名乗る）をしていましたが、明治維新以後は菓子安という温泉宿に変わり、わたしはその6代目として、大正15年1月1日この家に生まれました。

しかし、小学校の大半、中学、高等学校、大学と別府を離れ、医者になってこの別府に帰り、既に45年が過ぎました。

この正月は88歳の誕生日でもあり、皮膚科医として丁度60年を迎えることになります。そこでこれを機会に、どうしてわたしは皮膚科の医者になったのか、そのルーツを探ってみたいと思います。

§ 鳴海家の家系

鳴 海 家 の 家 系

初 代：菓子屋安兵衛

- ・文化元年（1803）
- ・嘉永7年7月4日（1854）没（51才）

二代目：菓子屋安兵衛

- ・天保9年（1838）
- 万延元年9月（1860）22才 ※
- ・明治元年10月2日（1868）没（30才）

三代目：菓子屋安米

- ・天保14年（1843）
- ・明治24年12月15日（1891）没（48才）

四代目：鳴海安太郎

- ・明治37年9月28日（1904）没（37才）

鳴海ユキエ

- ・大正9年4月12日（1920）没（49才）

五代目：鳴海敬子

- ・明治37年5月8日（1904）生
- ・平成9年12月25日（1997）没（93才）

鳴海 茂

- ・明治31年5月7日（1898）生
- ・昭和62年4月6日（1987）没（88才）

六代目：鳴海淳郎

- ・大正15年1月1日（1926）生

鳴海静子

- ・昭和5年3月30日（1930）生

5代目の母のこと

成績優秀だった母は回船問屋の後を継がずに東京菊坂の女子美術学校英文科に進みましたが、祖母ユキエが亡くなったために中退せざるを得なくなり、郷里別府に帰ってきました。しかし、孤独感に堪えられず、良寛に傾倒し短歌を詠むようになり、いろいろ歌集を残しています。

父のこと

このような母は 東京帝国大学農学部実科を卒業して農学校の教員であった父と養子縁組みをする事になり、当時農学校のあった三重町に移住することになりました。それで、幼少年時代を大分県三重町で過ごすことになったわけです。

幼少年期の思い出

このように、わたしは別府生れの三重育ちですが、小さい時は別府と三重の間を往き来していたようです。

人の話によると、わたしは母にとくに厳しく育てられたようですが、そのような厳しさよりも、幼年時代のわたしに英語でホーム・スイート・ホームを、フランス語でマルセイユを口伝えに教えてくれた母の優しさの方が記憶に残り、その後何10年も経つにおいて現在も、なお不完全ながらこれらを口ずさむことができます。

また、三重時代 父は小学生のわたしに昆虫採集の仕方を丁寧に教えてくれましたし、その頃たまたま父が学生時代に書いた顕微鏡のスケッチ画を何枚か見る機会があり、妙に感動したことを思い出します。

さて 皮膚科医として60年になりますが、わたしがどうして皮膚科を選んだのか考えてみると、以上述べましたように、父から教わった昆虫採集をきっかけに、高等学校時代には「みみず」の解剖をしたり、大学一年の放課後には肩甲骨の計測をしたりして、自然にものを見る訓練をさせられてきたことがわたしの皮膚科医としてのルーツであると思われてなりません。



この間、温泉と皮膚、スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住む人にとっては切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。

そのきっかけは、久しぶりに郷里・別府に帰り、徳川中期以降湧き出ている由緒ある自宅の温泉に入るようになって、たまたま冬という季節も手伝ってか、肌が荒れてきたことが非常に気になりました。

わたしの家は1803年以來回船問屋（屋号・菓子安、代々・菓子屋安兵衛を名乗る）をしていましたが、明治維新以後は菓子安という温泉宿をしていました。その先代が、医者、それも皮膚科医となったわたしに『温泉と皮膚』というテーマを授けて呉れたものと思えてなりません。

§ 温泉と皮膚

1. 温泉と皮膚に関する開業後の実績

- ・1969年1月：別府に帰省して診療開始
- ・1972年：第1回入浴調査
- ・1976年：第2回入浴調査
- ・1990年：第3回入浴調査
- ・2001年1月：『JN 全身シャンプー』をつくる
- ・2001年7月：小著『温泉と皮膚』発行



2. 入浴調査について

過去3回にわたり、当クリニックの患者さんを中心に入浴調査を行いました。

*入浴状況

	昭和47年	昭和51年	平成2年
温泉	860人	755人	785人
わかし湯	88.9%	91.5%	95.8%
湯方	11.3%	38.0%	40.4%
その他	0.1%	0.5%	2.8%

*入浴の頻度

	昭和47年	昭和51年
1日3回	0.2%	—
1日2回	7.7%	2.1%
毎日1回	77.0%	84.1%
2日1回	12.1%	10.9%
3日1回	2.4%	1.5%
1週1回	0.6%	0.4%
その他	—	1.0%

*温泉入浴頻度と皮膚の状態

	入浴者数		かゆみを感じた人の割合	
	47年	51年	47年	51年
1日3回	222人	464人	—	—
1日2回	2人	—	50.0%	—
毎日1回	28人	10人	42.8%	70.0%
毎日1回	161人	395人	14.2%	10.6%
2日1回	25人	43人	24.0%	7.0%
3日1回	4人	7人	0%	14.3%
1週1回	2人	4人	50.0%	25.0%
その他	—	5人	—	—

3. 入浴調査のまとめ

- ・入浴状況：3回の入浴調査の結果、これは少し気になるところですが、温泉に入る人が少なくなる傾向にあることが伺われます。
- ・入浴の頻度：毎日1回入浴する人が一番多く、2日に1回がこれに次ぎ、1日に2～3回入浴する人がいるかと思えば、3日に1回、更に1週に1回しか入浴しない人がいるということがわかりました。
- ・温泉入浴頻度と皮膚の状態：1日2回以上入浴するとかゆみを訴える人が多く、反対にあまり入浴しないと、かゆみを訴えやすくなるということがわかりました。
- ・ナイロンタオル使用状況：ナイロンタオルを使用している人は1000人中246人で、その中の26人（10.6%）が色素沈着をきたしていることがわかりました。
- ・水虫の発生状況：1000人中185人が水虫にかかっており、趾間をよく洗う人の方が水虫の発生率が低いということがわかりました。

4. 温泉と洗剤

・温泉と普通の石けん

温泉で普通の石けんを使うと皮膚が荒れて痒くなることがありますが、硬度の強い温泉ほどこれは一層強くなります。

一般に硬水で石けんを使うと、カルシウム、マグネシウム、鉄、アルミニウムなどの塩類が石けんの脂肪酸基と結合して、水に溶けない金属石けん（俗に「浮きかす」という）をつくり、これが脂の取り除かれた皮膚を刺激することになります。

・中性洗剤の発展

そこで、この欠点をなくすために、中性洗剤が使われるようになったのですが、

・従来の中性洗剤の欠点

温泉で使っても石けんのような刺激はありませんが、「あか」や「よごれ」と共に角層中の脂肪分まで洗い落としてしまう欠点があります。しかも公害を残すことが欠点です。

・理想的なシャンプーをつくる

これは界面活性剤の配合に問題があり、一つのアニオン界面活性剤を配合した従来のシャンプーを改めて、一つのアニオン界面活性剤だけではなく、他のアニオン界面活性剤や両性界面活性剤をバランスよく配合すると、前述のような欠点がなくなり、東京の研究所に依頼して理想的なシャンプーをつくることになりました。（2000年1月）

・ジェイ・エヌ 全身シャンプーの特徴

温泉での使用に最適で、アトピーの人でも安心し



て使える、これまでにない理想的な全身シャンプーです。

1. 『あか』や『よごれ』は取りますが、皮膚の脂を取りすぎることなく、しっとりと皮膚を保護します。
2. 温泉で普通の石鹸を使うと、硬水の成分と反応して皮膚を荒らすので皮膚病を治り難くしますが、このシャンプーではそのようなことは起こりません。
3. 普通の中性洗剤と違って、泡が分解しやすいために公害を残さず、環境にやさしいシャンプーです。



§ 皮膚科医として別府にいきる

I. わたしの皮膚科医としてのルーツ

※ 幼年時代の追憶

人の話によると、わたしは母にとくに厳しく育てられたようですが、そのような厳しさよりも、幼年時代のわたしに英語でホーム・スイート・ホームを、フランス語でマルセイユを口伝えに教えてくれた母の優しさの方が記憶に残り、その後何10年も経つ現在においても、なお不完全ながらこれらを口ずさむことができます。

一方、父は小学生のわたしに昆虫採集の仕方を丁寧に教えてくれました。また、この頃たまたま父が学生時代に書いた顕微鏡のスケッチ画を何枚か見る機会があり、妙に感動したことを思い出します。このように、自然科学への憧憬は父より、感性の育みは母より受け継がれていることを今更のように思い出します。

※ 高等学校時代の追憶

第五高等学校時代の後半、終戦後の1、2年間にあたりますが、わたしは動物学の先生のご指導で、余暇を利用して約70匹の「みみず」の解剖をしたことがあります。生殖器や盲嚢の形態を詳細にしらべ、比較解剖学の片鱗に触れて、妙に気を引かれたことを思い出します。

※ 大学に進学して

その後九州大学医学部へ進みましたが、一年の夏休み、解剖学教授のご指導で肩甲骨の計測をしました。教授のご意向で84体の計測の結果を小論文（英文）にまとめましたが、戦後の混乱に紛れて未発表に終わってしまいました。しかし、骨の形が筋肉や関節の運動といかに関係が深いかを如実に知らされたものでした。

※ なぜ皮膚科医になったか

皮膚科医として60年になりますが、わたしがどうして皮膚科を選んだのか考えてみますと、以上述べてきましたように、父から教わった昆虫採集をきっかけに、高等学校時代には「みみず」の解剖をしたり、大学一年の放課後には肩甲骨の計測をしたりして、自然にものを見る訓練をさせられてきました。

また、わたしは一時、精神科を選ぼうと考えたこともありましたが、なぜ母校に入局しないで東京に出てきたか、その一つに経済的な原因がありました。

東京通信病院でインターンをする事になって色々考えた末、当時の中島病院事務長が大分県佐伯出身であったこともあり、事務長の紹介もあって皮膚科部長、小堀辰治先生の教えを受けることになりました。

そして、入局以来病室の医局で机をならべ、四六時中わたしを細かく指導して下さった副部長の平出先生は、入院患者を極めて丁寧にみられる方で、早朝から色々一緒に検査をしたり、病歴を細かく書くことを教えられたり、患者さんが亡くなると、病理の先生と一緒に解剖に立ち会われるなど、皮膚科医として本当に全身をよく診られる先生に私は感化されました。





Was ist das Schwerste von Allem?
Was dir das Leichteste duenket.
Mit den Augen zu sehen,
Was vor den Augen dir liegt.

これは数あるゲーテの詩の一つですが、わたしはこの詩が好きです。(すべてのものの中で最も難しいものはなにか、それは、あなたの前にあるものを見るという、最もたやすいと思われることであるという意味) この詩をはじめて知ったのは、丁度インターンの頃でしたから、あるいはこれが皮膚科医を志すきっかけになったかも知れません。

また、わたしは特に皮膚と「こころ」の問題を考えていますが、前述のように一時精神科を志望したと関係があるように思えてなりません。皮膚と神経とは発生学的にも外胚葉という同一のオリジンであることから、切ってもきれない関係にあることを今更のように思う次第です。

Ⅱ. 皮膚科医として、わたしが歩いて来た道

この正月 わたしは88歳になり、皮膚科医として丁度60年を迎えることになります。

そこで、これを機会にわたしが歩いて来た道を振り返ってみたいと思います。

- ・ 1951年（昭和26）
九大卒業、その後東京通信病院でインターン終了
- ・ 1953年（昭和28）
1月より東京通信病院皮膚科勤務
- ・ 1959年 東京大学より学位授与
- ・ 1960年（昭和35）
4月より群馬大学医学部皮膚科助教授
- ・ 1963年（昭和38）
9月群馬大学を辞して、東京新橋に東京皮膚科診療所開設
5年間全国理美容ネットワークに乗って開業
- ・ 1968年（昭和43）12月24日
別府に帰って鳴海皮膚科クリニック開設
- ・ 1969年（昭和44）1月13日より診療開始

医師会役員として

別府市医師会常任理事として

・ 1974年（昭和49）4月1日より3期6年
大分県医師会常任理事として

・ 1980年（昭和55）4月1日より3期6年
別府市医師会監事として

・ 1986年（昭和61）4月1日より2期4年

- ・ 1996年（平成 8年）6月
・ 日本皮膚科学会功労会員
- ・ 2010年（平成22年）5月
・ 日本臨床皮膚科医会特別会員

※東京通信病院時代：

昭和28年(1953)1月～昭和35年(1960)3月

昭和26年（1951年）九大卒業後、東京通信病院にてインターン終了、そのまま同病院皮膚科に勤務することになり、当時新進気鋭な恩師小堀辰治先生のご指導を受けることになりました。

入局と同時に当時としては日本でいち早く副腎皮質ホルモン療法の研究に着手した共同研究者の一員となり、一方、アメリカで発展した新しい軟膏療法の手ほどきを受けました。そして、「副腎皮質ホルモンの円形脱毛症に対する治療効果、特にその奏効機序について」を主論文に審査をうけ、1959年 東京大学より学位を授与されたことは、わたしの生涯で忘れることのできない幸せなことの一つでした。

※群馬大学時代：

昭和35年(1960)4月 ～ 昭和38年(1963)9月

ついで1960年、群馬大学医学部助教授として赴任、山崎教授より記載皮膚科学の原点に触れたドイツ流の厳しいご指導を受けました。この北関東における研究生活3年間の様々な体験と、前任地である東京通信病院での8年間のいわばアメリカ流の自由な研究体験がミックスされて、今日の自分があるということを、今更ながら感謝しています。

※東京皮膚科診療所時代：

昭和38年(1963)10月～ 昭和43年(1968)12月

昭和38年（1963年）9月、群馬大学を辞した後、同年10月より昭和43年（1968年）12月までの東京新橋における5年間の開業生活は、全国理美容ネットワークにのった特殊な体験でした。始めは日本毛髪研究会本部付設の東京皮膚科診療所として発足したが、後に独立して経営。

※鳴海皮膚科クリニック:昭和43年(1968)12月～

その後、父の度重なる脳梗塞の発作のために遂に故郷別府に帰って開業することになりました[診療所開設は昭和43年（1968年）12月24日、翌44年（1969年）1月13日より診療開始]。

・ 法人社団 鳴海クリニック：

平成8年（1996）12月～ 現在に至る。

開業以来、地域医療の第一線で多くの患者さん



に接し、皮膚に関する啓蒙と、幅広い皮膚科医療で地域社会に密着することを夢見てこれまでやってきましたが、この間、別府市医師会理事を3期6年、大分県医師会常任理事を3期6年、別府市医師会監事を2期4年務め、わたしとしてはまたとない経験を重ねることができました。

また、皮膚科開業医は如何にあるべきかについて、学会シンポジウムその他で意見を述べてきましたが、とくに皮膚科の専門性を生かして包括医療をきめ細かく行ない、地域密着することを大切にして来しました。

Ⅲ. 別府に帰省して開業後、わたしは如何に皮膚科診療を展開してきたか

皮膚科医として60年、郷里別府に帰って開業45年になります。またロータリー・クラブに入会して43年が過ぎましたが、この43年にわたるロータリーの体験は、更に皮膚科医としての職業奉仕に磨きをかけながら88歳の現在に及んでいます。

※ とくに別府に帰ってからの皮膚科診療

ところで、久し振りに郷里・別府に帰り、徳川中期以降湧き出ている由緒ある自宅の温泉に入ると、温泉と皮膚、スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住み人にとっては切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。廻船問屋から温泉宿にかわった先代が、医者、それも皮膚科医になったわたしに『温泉と皮膚』というテーマを授けて呉れたものと思えてなりません。

※ 皮膚科診療に対するわたしの考え方

- ・私の職業奉仕は、『常に大所高所より、あくまでも患者さんのために』にあります。安易に患者さんの要求に応ずることのみが医師の職業奉仕ではないと思います。
- ・患者さんのために、常に新しい夢をもち、現時点において最善の治療が提供できるよう、研鑽を怠らないことであります。
- ・そして、皮膚科医は単に皮膚のみならず、場合によっては皮膚を通して人間全体を考え、更には、まわりの環境をも念頭におく必要があることを考えてきました。
- ・とくにわたしたち開業医は、地域医療の第一線にあって多くのありふれた皮膚病患者に接するわけですから、これと積極的に取り組み、上手に治せる医師でなくてはなりません。
- ・そのためには、皮膚症状並びにその治療経過を

細かくみることは勿論ですが、その原因なり、それを治りにくくしている背景を探るため、必要な諸検査を行い、この検査所見を参考にして皮膚症状を診、それに合わせた治療法を選び、治療経過を細かく診なければなりません。

- ・とくにアレルギー性皮膚疾患の場合にあっては、アレルギーに対する処置は勿論ですが、場合によっては神経、とくに自律神経ならびに内分泌の影響をも考えた、いわゆる三位一体の概念に基づいた治療が大切で、Nothing but the best の治療を念願する次第です。

鳴海クリニックの診療方針

1. 皮膚病を全身的に把握。常に皮膚と全身を考えながら診療に当たる。
2. 注射、内服、外用剤の選定はきめ細かに、症状並びに治療経過に応じて選択。
3. 副作用チェックを忘れないこと。

皮膚科診療に対する当クリニックのモットーと診療内容の充実

1. 当クリニックのモットー

- ・『常に大所高所より、あくまでも患者さんのために』
- ・新しい皮膚科診療を求めて
アトピー性皮膚炎などを一層治りやすくするために、皮膚を中心に 免疫・神経・内分泌の働きを同時に考えた、いわゆる「三位一体の新しい皮膚科診療」の推進
- ・Nothing but the best の治療

2. わたしが自信をもってお応えできる3つの治療

- 1) アトピー性皮膚炎を完全に治す
- 2) 「にきび」を上手に治す
- 3) レーザー治療

3. 診療内容充実のために導入された新しい治療

- 1) 凍結療法：1974年（昭和49年）以降
液体窒素による普通の「いぼ」や老人性の「いぼ」等の治療
- 2) レーザー治療
 - ・低反応レベルレーザー治療：1993年（平成5年）2月以降
とくに帯状疱疹後の神経痛や、通常の治療でこずっている痒疹などの『慢性皮膚疾患』『しろなまず』『円形脱毛症』などの治療に応用
 - ・高反応レベルレーザー治療：2000年（平成12年）6月以降
とくにアザ、シミ、ホクロの治療に応用、と



くに2000年6月から大分県では初めての、九州では3番目のQスイッチ・ルビーレーザーを導入して、太田母斑という特殊なアザの治療を始めた。また、炭酸ガスレーザーも導入してイボやホクロの治療が容易になった。

4. 新世紀に向けて理想の全身シャンプーをつくる (2001年1月)

スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住む人々にとって切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。

過去3回にわたる入浴調査の結果を生かし、何時かは理想的なシャンプーをつくりたいと思っていましたが、2001年1月、東京の化粧品メーカーの協力を得て、オリジナルの全身シャンプー(ジェイ・エヌ全身シャンプー)をつくることになりました。

ジェイ・エヌ全身シャンプーの特徴

- ・『あか』や『よごれ』は取るが、最後の脂気は残し、しっとり皮膚を保護する。
- ・温泉のような硬水で使っても、普通の石鹸と違い、肌を荒らさない。
- したがって、アトピーの人でも安心して使える。
- ・普通の中性洗剤と違って、泡は分解しやすく、公害を残さない。

§ ロータリアンとして別府に生きる

I ロータリー入会して43年・・・この間わたしの心を捉えたものは

ロータリーの奉仕は“Thoughtfulness of and helpfulness to others”『思いやりの心をもって他人のために尽くすこと』及び、“He Profits Most Who Serves Best”『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』ということです。

“Thoughtfulness of and helpfulness to others”『思いやりの心をもって他人のために尽くすこと』

この場合、上記原文の Thoughtfulness of and helpfulness to othersにおける othersの意味を広げ、ロータリーにおける思いやりの心は、ただ単に人に対してだけでなく、まわりの環境に対しても向けられるべきであると思っています。(これはわたしが10年以上前からとくに強調していることです)

“He Profits Most Who Serves Best”『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』

そこで、「最もよく奉仕をする者、最も多く報

いられる」の中の「最もよい奉仕」とは具体的にどういうことなのか、“Nothing but the best”の奉仕を考えてみたいと思います。

つまり、

- ・製造業の場合は「これ以上の良いものはつukれない」という気持ちで、
- ・サービス業の場合は「これ以上のサービスはできない」という気持ちで努力すること、
- ・医師の場合は「患者さんのために現時点で最善の医療を施す」よう努力することであると思っています。

この2つの言葉は、ロータリーの心を自分の職業に生かすために心がけている私の好きな言葉ですが、地域のために何か良いこと、新しいことが出来ないか、常に新しい夢をえがきながら毎日の仕事にベストを尽くす努力をしております。

その結果として世間の信用が得られ、これがいわゆるProfits (利得)につながり、ひいては地域の活性化に役立つのではないかと思います。

II とくにロータリー・クラブに入会後の活動

1. 別府中央ロータリー・クラブが創立以来取り組んでいる「もみじ谷植樹」の意義

1) 別府もみじ谷は阿蘇くじゅう国立公園の入口に位置する広さ約30ヘクタールの谷で、別府市内を流れる朝見川の源流地域であり、大切な温泉の水源でもあります。

それ故、モミジの植樹によるこの谷の環境保全は、温泉都市別府の生命線に関わる大切な必須事業と言えます。

2) また、この谷を北側から俯瞰する形で湯布院方面へ行く(別府～一宮)道路が走っていますが、将来この30ヘクタールの谷全体がモミジで覆われた時、その景観は日本随一のものになると思われます。

2. 少年少女のための「油屋熊八物語」をクラブ創立10周年記念行事の一つとして発行

21世紀は「こころ」の時代とされていますが、今日ほど「他人のことを思い、他人のために尽くす」というロータリーの心が必要なときはありません。

別府観光の父・油屋熊八翁の心を現代の子ども達にも伝え、子どもの感性に訴えて、子どもに夢と感動を与え、別府の未来を築く人づくりに、いささかなりともお役に立つことができれば幸いです。

3. 「ロータリー物語」の発行

ロータリーを一般の人にも分かりやすく伝える



ために、2000年1月のロータリー理解推進月間を記念して「ロータリー物語」を出版、ついで当クラブの創立15周年を記念し、ロータリー創立100周年を前にその改訂版を出版しました。(2004年3月)

4. ロータリーの友(ロータリー機関誌)への投稿

1992年2月号：温もりの中へ 別府

2000年9月号：新しき音の泉にわく別府－世界に向けての別府アルゲリッチ音楽祭

5. ロータリーのスポークス・パーソンとして

2001年8月以来、ホームページ“ロータリー探究”でロータリーに関することをできるだけ分かりやすく伝えるために毎週更新してきましたが、この正月で270回になりました。

6. Nothing but the best の皮膚科医療を夢みて

また、同時にこのホームページの“クリニック・レポート”で皮膚並びに皮膚病に関する啓蒙につとめる一方、1974年以降液体窒素による凍結療法をはじめとして、1993年には低反応レベルレーザー療法を、2000年6月からは大分県ではじめてQスイッチ・ルビーレーザー治療器を導入して新しい「あざ」の治療をはじめました。

その他、アレルギーの治療、とくにアトピー性皮膚炎の治療に関しましては、ほぼ完璧の域まで自信を持つことができ、「にきび」の治療については、誰にも負けない自身を培うことが出来ました。

これらはすべて別府よりの発信で、最近ではホームページをみて、市外、及び県外から来院する患者さんが目立つようになりました。

§ 別府市の将来について考える

別府は美しい海あり、山あり、それに加えて日本一の温泉もあり、観光立市のすばらしさを備えています。これが別府市における偉大な3大資産であります。

これは他に類をみないかけがえのないもので、この天与の資産を守り、これを別府のトレードマークとして今後の発展に生かすことが、わたしたち別府市民の使命です。

I 別府市の3大資源を生かした諸施策

宮崎交通の創始者で「宮崎観光の父」と呼ばれた故岩切章太郎氏は数々の名言を残されたかたですが、氏の言う「良い観光地」に必要な、自然の美と、人工の美と、人情の美という三つの美をこのころとして、別府市の3大資源を生かした諸施策を講ずることが必要と思われます。

とくに、次のイラストに示されるように、湯け

むりは別府温泉のシンボルです。湯けむりが立ち上がる光景は温泉地ならではの情緒にあふれています。

油屋熊八が大阪商船で別府に着き、小船に乗りかえて船だまりに上がった時、蒼い鶴見岳、湯煙たなびく町、紺碧の澄んだ海に唸ったと言います。そして山と海と温泉の町・別府は今後観光客の心を大いにひきつけることになるだろうと思ったと言われています。

恵まれた海・山の自然の景観に加えて、別府市内約50平方kmにわたり、3000に近い泉源より1日に約13万klもの温泉が昼夜の別なくこんこんと湧き出し、これが周囲の環境と相俟って湯けむりとしての風情を添えています。

別府がいかに発展しようとも、このかけがいのない「湯けむり」を失ってはなりません。



(イラスト：別府市観光協会)

1. 温泉を生かしたプロジェクト

※ 別府が誇るべき温泉研究の歴史と今後の問題

- ・京都大学物理学附属地球熱学研究施設・・・大正12年12月に開設。一般物理学研究のほか、火山、地熱、温泉に関する研究と教育を目的としています。
- ・九州大学病院別府先進医療センター・・・昭和6年に温泉治療学研究所として建設され、内科ではリウマチ、膠原病の温泉治療施設として研究が続けられてきました。

現在ではリハビリなどにも温泉を活用しています。

- ・原子爆弾被爆者別府温泉療養研究所（別府原爆センター）・・・原爆被爆者が温泉療養により心の安らぎが得られ、健康保持・増進を図るために設けられたものです。
- ・大分県温泉熱花き研究指導センター・・・温泉熱を利用した温室で様々な花の品質改良や生花の生産、研究を行なわれています。

わが国における温泉医療の研究は、世界に冠たるものがあり、これと平行して温泉保養地と



しての別府は非常に有名でした。ところが、九大温泉治療学研究所が廃止され、現在の九州大学生体防御医学研究所に変わってからは昔日の感なく、心寂しく思っている昨今ですが、どうか昔のように活発でありたいものです。

※ 温泉資源の多角的な活用について

温泉の健康への活用方法については、上記以外、予防医学・療養リハビリ・老化防止など、様々な活用が開発されていますが、「人々が心身ともに健康でいられるよう支援するサービス業」としてのウェルネス産業の育成、健康保養温泉地としての中心的役割を果たすことが望まれています。具体的には、医療機関との連携による健康診断プログラムの開発や、温泉泥を活用したエステ「ファンゴティカ」の商品化など、色々考えられますが、そのためには医療・公衆衛生機関との連携による「温泉医療の学術的実証」の推進が別府市におけるONSENツーリズムの基本戦略の一つの柱と謳われています。

「以上、別府観光推進戦略会議（平成16年9月）の別府観光推進策に関する提言書より」

2. 山を生かしたプロジェクト

毎年4月の第2日曜日に実施される「つるみ岳一気登山」もいよいよ今年で20回目を迎えますが、別府の山を生かした観光プロジェクトとして既に全国的な名物となっています。

なお、これに連動して行なわれている前述の「もみじ谷植樹」は、更なる活動の進展を図るため、この度「特定非営利活動法人別府もみじ谷トラスト機構」が設立され、施されています。

これは、他に類例をみないプロジェクトで、かけがえのない天与の資産を守り、これを別府のトレードマークとして今後の発展のために生かすことは勿論のこと、環境保全に極めて重大な意義を見出すものとして注目に値するものであります。

3. 海を生かしたプロジェクトを考える

これに反して、海を生かした観光プロジェクトにはまだ見るべきものがなく、今後の課題として注目されているところです。

ところで、別府の海からの眺めの素晴らしさは世界に冠たるもので、昔から東洋のナポリと称されています。

このような素晴らしい自然環境に恵まれた別府ですが、今の別府の海岸線は、殆んどの海辺にコンクリートの護岸や消波ブロックが並び、実に殺風景な感じを与えています。

この海岸線を美しく快適な海岸線に蘇らせるた

めに、九州では久しぶりの国による海岸保全施設整備事業と、県による新港湾計画が平成13年度から23年までの11ヵ年事業として始まっています。（国は、平成13年度に直轄事業として、総事業費162億円にのぼる事業実施を決定しました。）

そして、この一連の事業として、ヨットハーバーの拡張と、アリーナ機能の充実による海上レクリエーション基地をつくるべく事業が進められていますが、貴重な風景を世界中の人々に満喫して貰うよう別府の海洋レクリエーション基地を拡充することは、将来の別府にとって不可欠のことと思われる。

ヨットや高速艇などによる海上レジャーを更に大衆化して、別府に海のレジャー施設をつくることは、北浜のホテル旅館ならびに温泉施設と相俟って、内外からの観光客誘致に大いに役立つものと思われます。

II 国際化を推進し更なる飛躍を目指す

このほか、別府市では日本初の本格的な国際大学「立命館アジア太平洋大学」の開学（H12年4月）や、アジアを中心とした外国人観光客の積極的な誘致活動など国際化に向けた取組みも非常に活発です。また、来年に迫ったワールドカップサッカーでは、隣接する大分市が九州唯一の開催地となっているため、選手や観戦客にとって別府市は利便性も高く格好の宿泊地になるでしょう。

別府を世界にアピールできる絶好のチャンスがすぐそこまでやってきました。

「観光温泉都市」から「国際学術文化温泉都市」へ。新たな魅力を加え別府市が今後一層飛躍することを期待したいものです。

別府の将来を考えるにあたっては、もっとスケールを大きく、グローバルな考え方に立って世界の別府にすることが必要ではないかと、最後に申し述べたいと思います。

**別府に生れたからには 将来の別府を夢見て
別府を世界の別府に**